

Morning Lecture  
2020.06.18 Thu.

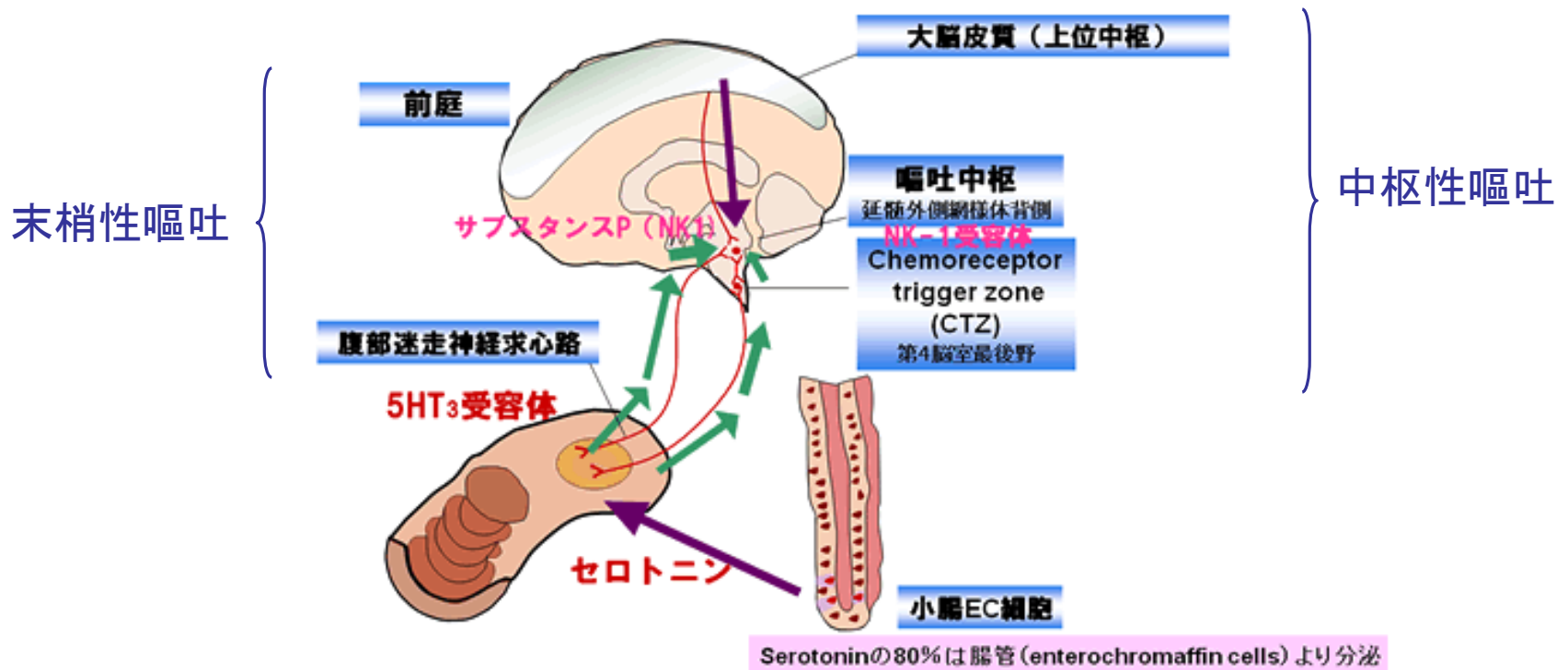
# 嘔気 ・ 嘔吐

鳥取市立病院 外科  
山村 方夫

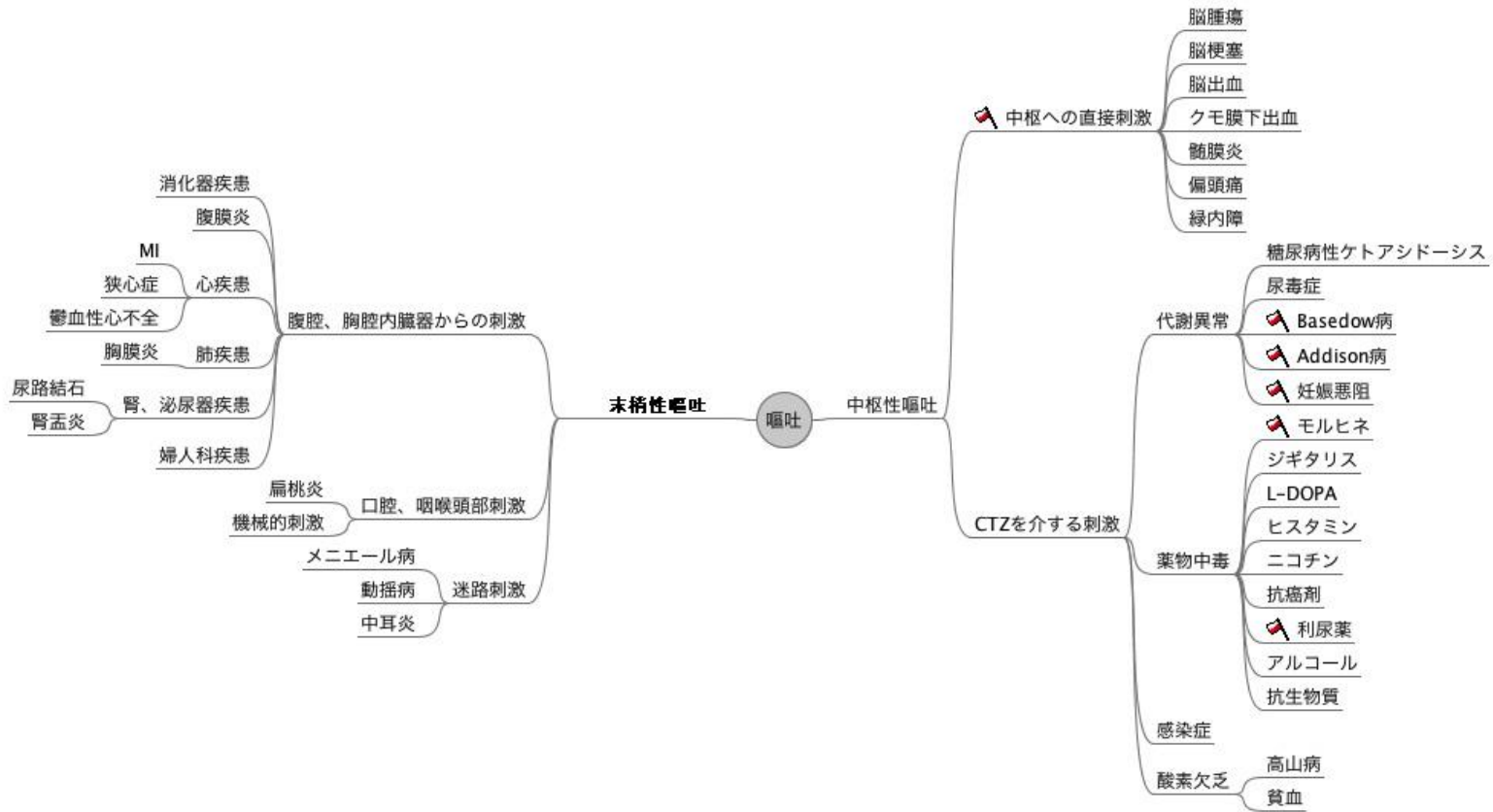
# 定義

- 嘔気とは、  
「吐きたくなるような切迫した不快な自覚症状である」
- 嘔吐とは、  
「消化管内容物を反射的に口から出すことである」

# 嘔気・嘔吐の病態生理



# 嘔気・嘔吐の原因



# 中枢性嘔吐をきたす疾患

- 薬物(モルヒネ、ジギタリス、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬、降圧薬、アミノフィリン、コルヒチン、アルコール など)
- 毒物(重金属、ガス など)
- 放射線(各種癌治療)
- 感染症(細菌毒素)
- 内分泌疾患(肝性脳症、糖尿病性ケトアシドーシス、尿毒症、妊娠悪阻 など)
- 代謝疾患(甲状腺クリーゼ、副腎不全、Addison病 など)
  
- 直接刺激
- 脳圧亢進(頭部外傷、脳腫瘍、脳出血、くも膜下出血、髄膜炎、放射線照射 など)
- 脳循環障害(ショック、低酸素性脳症、脳梗塞、片頭痛、脳炎、髄膜炎 など)
  
- 精神的要因(視覚や嗅覚刺激、神経性食思不振症、うつ病、てんかん、ヒステリー、抗悪性腫瘍薬投与時の予期性嘔吐 など)

# 末梢性嘔吐をきたす疾患

- 消化管疾患(GERD、食道裂孔ヘルニア、AGML、胃十二指腸潰瘍、虫垂炎、食中毒など)
- 消化管通過障害(消化管腫瘍、幽門狭窄、術後腸閉塞、内ヘルニア、ヘルニア嵌頓など)
- 腹膜疾患(腹膜炎 など)
- 肝胆膵疾患(急性肝炎、急性胆嚢炎、胆管炎、急性膵炎、悪性腫瘍 など)
- 循環器疾患(心不全、狭心症、心筋梗塞 など)
- 泌尿器科疾患(尿路結石、急性腎炎、腎盂腎炎 など)
- 耳鼻咽喉科疾患(メニエール病、中耳炎、乗り物酔い など)
- 眼科疾患(緑内障 など)
- 呼吸器科疾患(胸膜炎、咳嗽発作 など)
- 婦人科疾患(子宮付属器炎、月経前症候群、更年期障害 など)
- 脊髄疾患(脊髄癆、多発性硬化症 など)
- 自己免疫性疾患(結節性多発動脈炎、強皮症、側頭動脈炎 など)
- その他

# NAVSEA

- N neuro, CNS (頭蓋内病変、脳血管障害)
- A abdominal (消化管および消化器腹膜)
- V vestibular (前庭神経刺激)
- S somatopsychiatric/sympathetic (心身症/精神疾患、交感神経系の亢進)
- E electrolyte/endocrinologic disorder (電解質異常、内分泌疾患)
- A addiction (薬物中毒)

# 見逃してはならない疾患

- 頭蓋内病変（脳出血、小脳梗塞、髄膜炎）
- 急性冠症候群
- 糖尿病性ケトアシドーシス
- 腎盂腎炎
- 急性虫垂炎
- 絞扼性イレウス
- 妊娠（子宮外妊娠）
- 急性緑内障
- 薬物中毒（ジゴキシン、テオフィリン）



# 嘔気・嘔吐の評価

- 病歴の聴取
- 身体診察
- 血液生化学検査
- 画像検査

# 病歴聴取のポイント

- 発症および進展様式
- 吐物の性状と回数、量
- 随伴症状
- 既往歴、生活歴
- 妊娠の有無と月経歴
- その他

# 発症および進展様式

- 発症時間および期間
- 誘因
- 前兆の有無
- 症状の変動の有無
- 食事の内容と摂取から発症までの時間的関係
- 周囲に同症状の者がいないか

# 吐物の性状と回数、量

- 血液
- 胆汁
- 便臭の有無

# 随伴症状

- 発熱、悪寒、戦慄
- 腹痛
- 下痢
- 頭痛
- めまい
- 胸痛、胸部圧迫感
- 眼痛 など

# 既往歴、生活歴

- 過去の同様のepisodeの有無
- 高血圧、心疾患、肝疾患、腎疾患、糖尿病、内分泌疾患などの治療歴
- 手術歴(特に開腹手術)
- 放射線治療
- 職業歴(有機溶媒、化学薬品)
- 最近の転居(sick house)
- 海外渡航歴

# その他

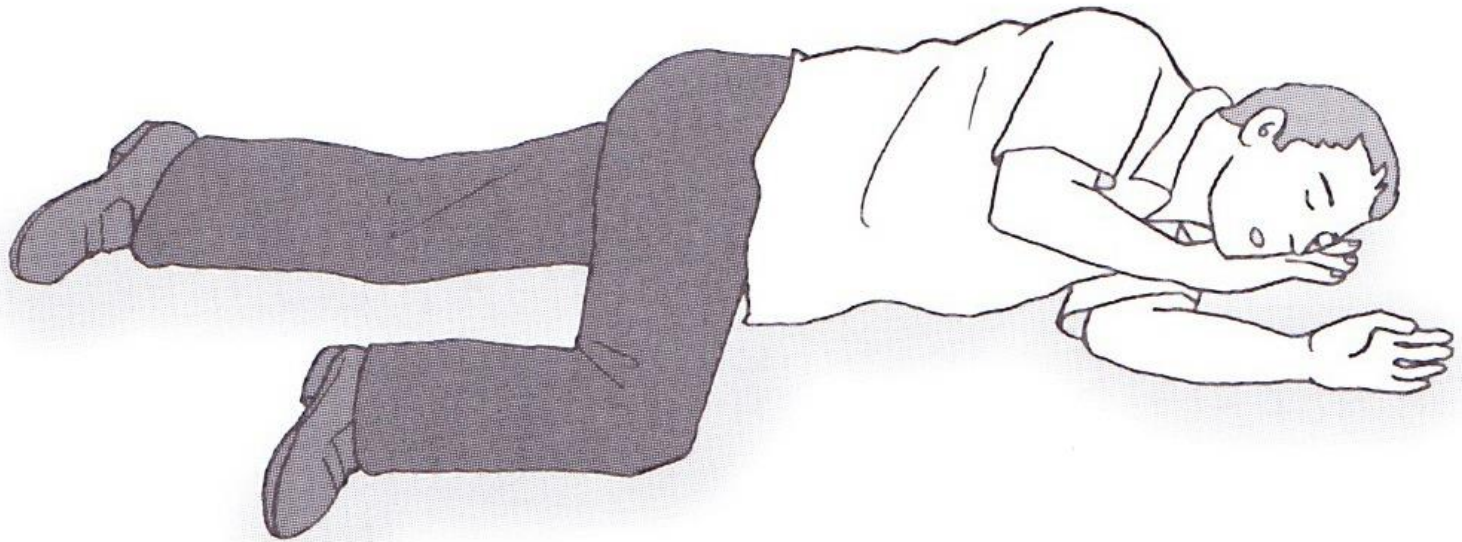
- ダイエットをしているか
- 肥満、食物への嫌悪感がないか
- 長期間の絶食や飢餓の有無

# 治療

- 基本は原因疾患の治療！
- 嘔吐が強い、経口摂取が困難 などあれば補液を行う。
- 電解質の補正
- 原因が特定できない、原因疾患の治療が困難であれば対症療法が選択されることになる。



# 昏睡体位



出典「救急蘇生法の指針」へるす出版 2010

# 嘔気嘔吐の治療に用いられる薬剤

中枢性

末梢性

D2  
セレネース

D2 H1 Achm

フェノチアジン系  
ピーゼットシー, トリラホン(ペルフェナジン)  
ノバミン(プロクラルペラジン)  
コントミン, ウインタミン(クロルプロマジン)

D2 H1 Achm 5HT3

ヒルナミン(レボメプロマジン)  
オランザピン(ジプレキサ)

H1 抗ヒスタミン薬  
ドラマミン, トラベルミン  
クロールトリメトン

H1 Achm

ピレチア, ヒベルナ(プロメタジン)

その他

副腎皮質ステロイド剤  
ベンゾジアゼピン系薬剤

D2  
プリンペラン  
ナウゼリン

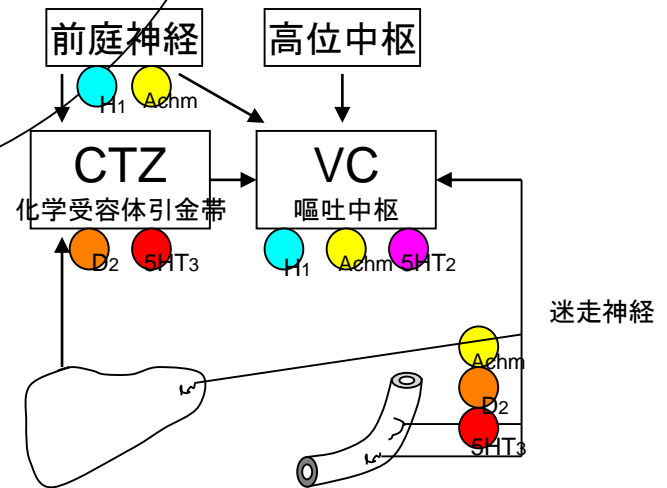
5HT3

カイトリル  
ゾフラン  
セロトーン  
ナゼア  
ナボバン  
シンセロン

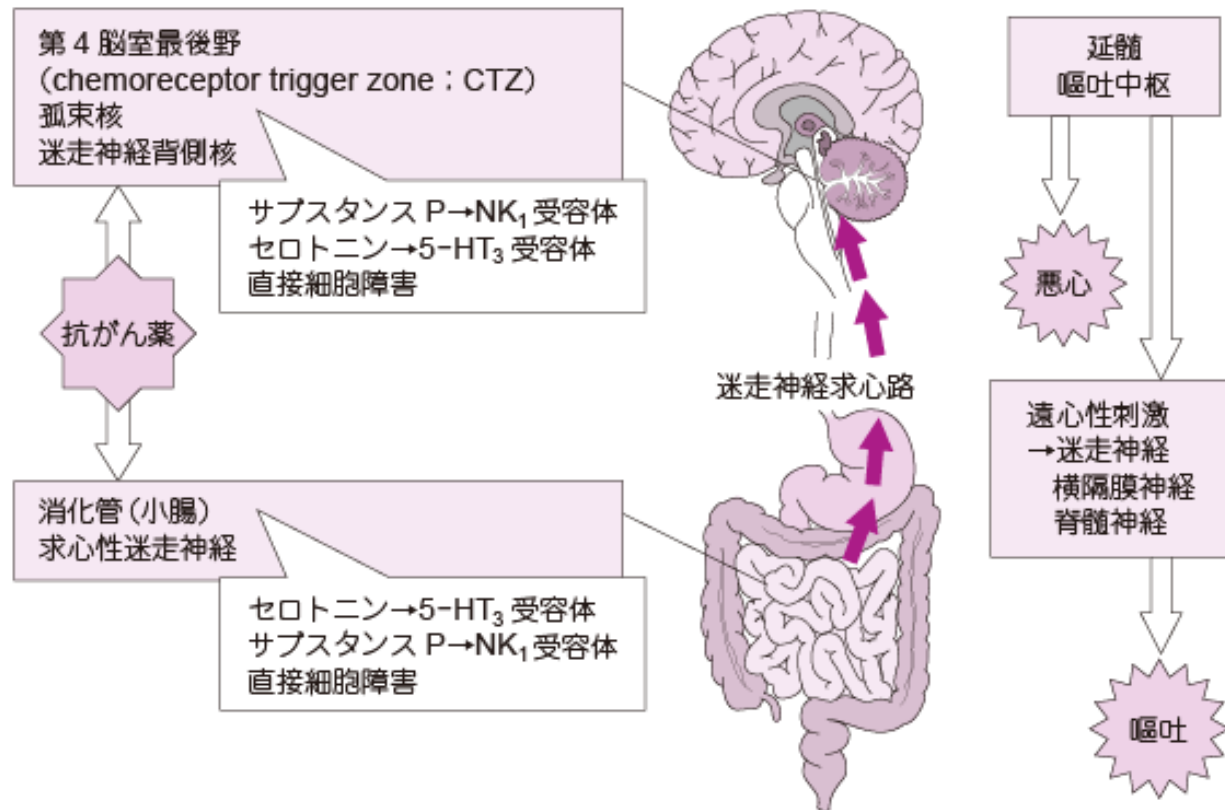
Achm  
ストロカイン  
アトロピン  
ブスコパン  
コリオパン

ガスマチン  
セレキノン  
ガナトン

- D2 ドーパミンD2受容体拮抗薬
- 5HT3 セロトニン受容体拮抗薬
- Achm ムスカリン受容体拮抗薬
- H1 抗ヒスタミン薬



# 抗がん剤による悪心・嘔吐 のメカニズム



# 抗がん剤による悪心・嘔吐の種類

- 投与後24 時間以内に出現する急性の悪心・嘔吐 (acute emesis)
- 24 時間後から約1 週間程度持続する遅発性の悪心・嘔吐 (delayed emesis)
- 制吐薬の予防的投与にもかかわらず発現する突出性悪心・嘔吐 (breakthrough nausea and vomiting)
- 抗がん薬のことを考えただけで誘発される予期性悪心・嘔吐 (anticipatory nausea and vomiting)

# 抗がん剤の催吐性リスク

リスク分類	嘔吐頻度	抗がん剤
高リスク	90%以上	ドキシソルビシン, エピルビシン/シクロフォスファミド (AC/EC療法), シスプラチン, シクロフォスファミド, ダカルバシン
中リスク	30~90%	カルボプラチン, オキサリプラチン, シクロフォスファミド, ドキシソルビシン, エピルビシン, ダウノルビシン, イダルビシン, イリノテカン, シスプラチン, イホスファミド, シタラビン, メトトレキサート, イマチニブ
低リスク	10~30%	カペシタビン, ドセタキセル, 5-FU, ジェムシタビン, エトポシド, メトトレキサート, パクリタキセル, シタラビン, ペメトレキセド, リボソーマルドキシソルビシン
最少リスク	10%未満	ブレオマイシン, ビンクリスチン, ビノレルビン, ビンブラスチン, メトトレキサート, ラパチニブ, トラスツマブ, セツキシマブ, ゲフィチニブ, エルロチニブ, ソラフェニブ, スニチニブ, サリドマイド, リツキシマブ, ボルテゾミブ, ダサチニブ, ベビシズマブ

# 緩和ケアにおける嘔気・嘔吐

- Neuro: 脳転移、がん性髄膜炎
- Abdominal: 消化管閉塞、便秘、腹水、上部消化管潰瘍
- Vestibular: 頭蓋底への転移、頭位変換
- Somatopsychiatric/Sympathetic: 抑うつ、予期性嘔吐
- Electrolyte/Endocrinologic disorder: 高Ca血症
- Addiction: オピオイド、NsAID、抗うつ薬、SSRI、ジギタリスなど

# 緩和ケアにおける制吐療法

# 症例

90歳 女性

食欲不振あり、翌日当院救急外来受診、急性腸炎として帰宅される。

その2日後に、近医受診されイレウスの診断で再度当院紹介。





